

平成30年度事業計画書

社会福祉法人はりま福祉会・せいりょう園

基本理念

人は、老いて要介護になり認知症にもなって最期を迎える吾身を、集団の中で仲間に委ねて『介護』を任せ、社会を構成して生きる為の『思想や人間性・社会性』を伝えて、人生を締め括ります。「自然の摂理」に添った老いの必然として訪れる『吾身の変化と死』を後輩達に委ねる姿は、人生におけるバトンタッチの助走であり、ペースを合わせて後輩達が寄添い伴走する営みが『介護』です。『介護』は、『限りある命』と命を繋いで、遺伝子では伝わらない『社会と文化』を引継ぎ、歴史を続けてきた、『優れて人間的で崇高な営み』です。

『超少子』の今こそ、老いに伴う変化に応じて『しなやかに、したたかに、たくましく』生きる認知症高齢者の暮らしから、多様で柔軟な社会生活能力を若い親や幼い子供達に引継ぐ為の『社会的な仕組み』が重要です。その仕組みとして『公的介護保険制度』が創られたのだと信じます。

老いて要介護や認知症になる老人も、ダウン症で生れる子供達も共に、『多様で柔軟な持続可能な社会』を象徴する存在あり、迷惑でも予防の対象でもなく、社会全体で支えるべき『有用・有益な存在』です。

社会福祉法人の公益性の発露として、『要介護老人の存在価値』と『介護の価値と魅力』を顕かにし、要介護や認知症の人が持つ多様で柔軟な社会性を『子供達に引継ぐ手立て』を創り出す事業を、地域の中で展開します。

(1) 平成30年度新規事業の計画

- ① 空き家を活用した高齢者・障害者の『グループハウス』を開設します。

縁あって賃借できる空き家に耐震補強・防火対策を施し、5部屋の共同住宅2軒を用意します。施設より徒歩数分の場所にあり、小規模多機能居宅介護や、定期巡回・随時対応型訪問介護看護を提供して、入居者の自立した生活を最期まで支えます。

- ② 事業所内保育所を、「自愛の家さくら」1階で開設します。

0歳児・1～2歳児・15人定員の事業所内保育所を今年度内に開設し、仕事と子育てを両立できる介護事業所を実現します。

- ③ 学童保育を、リバティかこがわ2階ホールで開始します。

今年7～8月の夏休み期間中の学童保育をまず開始し、順次体制を整え、日常的に開設できる方向で準備します。要介護や認知症の高齢者と触れ合う時間は、児童にとって貴重な生活経験になると確信します。

- ④ 障害者支援の「就労・生産・住まい」等の事業を計画・実施します。

障害者支援事業の「お弁当屋」を喫茶ラヴィックの隣接地に誘致して、共に事業として共存できる途を探り、その後法人独自の障害者支援事業を展開する途を探ります。

- ⑤ 「陶芸・造形」教室の活動を、地域の人、認知症の人、障害児・者が共に自らの感性と感覚と創造力を発揮して生きる「共生社会」を目指す為の一步と位置付け拡大します。
- ⑥ 生活保護受給者に住居を提供する途を探ります。
ケアハウス・サ高住・グループハウス等への入居に際しての低所得層への経済的配慮を、社会福祉法人の公益事業として取り組みます。
- ⑦ 加古川市社協を事務局とする社会福祉法人連絡協議会に参画し、他法人と連携・協力して地域社会への貢献・公益事業に取り組みます。
- ⑧ 地域の人やご家族を、有償・無償ボランティアとして介護現場に迎え、「老いの本質」と「介護の価値と役割」に気付いて頂く途を探ります。

(2) 平成30年度業務指針

1 食事と健康管理

『食べる』事は生命の源であり、食事の気配・雰囲気は「生活」を実感する瞬間です。『生活の気配』を感じながら生きて欲しいと願い、感性・感覚に働き掛ける生活空間を創り、口腔内の保清に努めて、『自然の摂理に沿った命の営み』を最期まで支えます。

2 認知症の人の介護

認知症は「進行性」の病気で、初期の不安・混乱期を過ぎて安定期に入れば、長年の生活で培った感性・感覚・経験則を基に、吾身の老いを受容れ自在に暮らしま++す。その姿は、『不規則な変化に対する寛容さ』を伝える『多様で柔軟な人と社会』を象徴する存在です。認知症になっても地域社会の一員としての暮らしを支える『介護』が、多様で柔軟な『持続可能』な社会への途を拓きます。

3 ケアプランとリスクマネジメント

『ノーマライゼーション』に添って『社会参加』と『自己実現』を図るには、主役として自らの暮らしを決める『主体性』が重要です。自立支援を基に『QOL・QODを尊重』し、主役として『引受けるべき妥当なリスク』とその対処法をケアプランで明らかにし、社会的に不当なリスクは排除します。

4 サービスの向上に向けて

自由な暮らしと良好な生活環境の確保に向けて、感染症対策、身体拘束・行動制限の廃止、等々について常に職務を点検し、変更・

改善に努めます。海外研修・外部研修会・内部研修会・各種会議を通じて、職員相互に切磋琢磨し、専門職としての技術を磨き、職業人としての資質を高めます。

5 事故への対応

日々機能が低下する暮らしの中で、不測の事故は起り得る事を前提として、事故後の迅速かつ適切な対処と丁寧な説明を旨として対応します。3名の第三者委員を中心に『サービス改善委員会』を毎月開催して、適切な対応と業務の改善に努めます。

6 防災避難対策

火災・地震・水害など災害時には自力で避難できない人が大半であり、火災を想定して年に2回、初期消火と避難誘導の訓練を行います。地震や台風等大規模災害も想定し、『福祉避難所』としての役割も考慮して地域にお住まいの要援護者も視野に入れて、『地域と連携』した避難訓練を企画します。非常食を3日分以上に備蓄して年に1回は非常食を食し、防災意識の向上に努めます。

7 季節毎の行事

年初の「初詣で」から年末の「餅つき」まで、季節に応じた行事を取り入れて自然の変化を感じ、ご家族や地域との接点を拓けます。夏祭りは、野口太鼓や学生・地域のボランティア・障害者団体等の協力を得て、未来の共生社会を目指す試みです。

(3) 平成30年度個別事業計画

1 特別養護老人ホームせいりょう園(ユニット型30人)の運営

「トイレ付き個室」で自分流の居住空間を創り、最期まで主役として暮らして欲しいと願います。一人の市民として介護し、身体拘束や行動制限は行わず、地域社会との接点を大切にします。

2 地域密着型特別養護老人ホームせいりょう園(20人)の運営

個室風に設えた2人室で、最大限に自分なりの居住空間を創って最期まで暮らして欲しいと願います。身体拘束や行動制限は行わず、地域社会との接点を大切にします。

3 指定短期入所生活介護事業(ショートステイ20人)の運営

看取りを覚悟して利用する方々も現れ、計画的に繰り返し利用する場合でも「最期への覚悟」を促す専門的技量が求められます。夫々の固有の関係スタッフが関与して人生の最終章を彩る暮らしを支えます。

4 軽費老人ホーム・ケアハウスせいりょう園の運営

バス・トイレ・キッチンを備え、最期まで自立した存在として暮らせます。所得階層に応じて、毎月の負担額が公費により補填される優遇措置が受けられます。

5 指定通所介護事業（デイサービスセンター20人）の運営

自然の変化や他者の視線を感じ取って、自らの居場所を探る力を養い、老いを受容して『人生の仕上げ』に備えて頂きたいと願い、老いの途を支える『感性と感覚』に働き掛ける工夫を凝らします。

土・日も含めて毎日の運営を目指し、定員も増やして、新たな総合事業にも取り組みます。また、児童や障害児者との接点も模索します。

6 老人居宅介護等事業の運営

① 指定訪問介護事業（ホームヘルプステーション）

② 指定地域密着型定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業

生活援助が中心となって創りだす生活空間で、24時間を通して適宜、身体介護・看取り介護等を提供して最期まで暮らしを支えます。介護保険対象から外れる日常生活支援サービスにも努めて、社会人としての仕上げの暮らしを支えます。

2つのサ高住の『安否確認と生活相談』及び『地域サポート型特養』の窓口として、地域全体に生活支援事業を展開する途を拓げます。

7 指定訪問看護事業（訪問看護ステーション）の運営

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業の看護部門を担い、かかりつけ医と連携して、人生の仕上げを迎える高齢期の暮らしにおいて、『QOLやQOD』に配慮して緩和ケアに努め、自らの生活空間で幸福な想いに浸りながら、人生を締め括って欲しいと願い、訪問看護を提供します。

8 介護相談室（居宅介護支援事業・ケアプラン作成）の運営

「人生最後の自己実現」を見届ける経験は、次世代の人の思想や社会性を育む貴重な『原体験』であり、出産や子育てを支える思想を育み、未来に希望をつなぐ『地域共生』の原点です。定期巡回・随時対応型訪問介護・看護事業と協働する途を大きく築いて、障害者の支援にも取り組み、地域共生社会への途を拓きます。

9 指定認知症対応型共同生活介護事業（グループホーム）の運営

認知症の人は、長年の生活で培った感性・感覚と経験則で他者との距離を測り、居場所を探り、適度な関係性を築く『社会生活の適者』です。彼らから多くを学ぶことができる介護現場の観察力と発信力を高め、運営推進会議を通して地域の人々に伝えて行きます。

2つのグループホームには、夫婦で入居できる居室が有る事を周知

し、定員3人の共用型デイサービスの利用者を募り、認知症の人が小さな生活空間の中で自らの生活感覚を発揮する暮らしを通じて、認知症の人の居場所を地域に広げます。

10 指定小規模多機能型居宅介護事業『輝きの家ながすな』の運営

新たな『グループハウス』の住人を支える最適の事業です。高齢者や障害者が例え一人暮らしでも、訪問介護を中心に多機能性を発揮して、ご家族やご友人とも協働して適度な距離を測り、自らの居宅で最期を迎えるまでの生活を、総合的・包括的に支えます。運営推進会議を通して、認知症のお年寄りや障害者から多くの学びが得られる事を、広く地域の人に伝えます。「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業」や「居宅介護支援事業」との連携・協働の途を探ります。

11 サ高住「リバティかこがわ」「自愛の家さくら」の運営

要介護になっても、認知症になっても、定期巡回・随時対応型訪問介護看護、小規模多機能居宅介護などのサービスを利用して最期まで自分流に暮らし、次の世代に社会を引継ぐ役割と責任を果たす為に最適の住宅です。バス・トイレ・キッチンを備え、適度な密度のコミュニティの中で他者と係わり、適度な距離とタイミングで介護サービスを利用して、『主役』として人生を締め括って頂きたい、と願います。せいりょう園のホームヘルプステーション・特別養護老人ホーム・老人介護支援センターが、『適度な距離』で生活をサポートします。

12 鍼灸マッサージ治療センターの運営

マッサージや指圧・柔道整復術は、生物学的な治療効果と同時に、人の手が触れる感覚が他者への信頼感や安心感を生み、心地良さや安息感を与える優れた技術です。介護の原点にも通じる高度な技術を入居するお年寄りに提供しながら、地域の多くの皆様にも利用して戴きたいと願います。職員の福利厚生も担います。

13 せいりょう園喫茶ルーム『ラヴィック』の運営

『サ高住入居者の食堂』『職員給食の場』『地域の人憩いの場』として運営を続けます。障害者の就労支援や地産地消の途を探り、子供達の『食育』にも係わりたいと願います。店内に図書コーナーを設け、エントランスには様々な情報の発信・交換の場を創り、街角コンサートでピアノの音が聞こえる憩いの場でありたいと願います。

14 せいりょう園老人介護支援センターの運営

『地域サポート型特養』の窓口として地域包括ケアシステムの拠点の役割をめざして、下記業務と共に地域交流事業を企画し運営します。
☆ 入所待機者の個別の待機状況を把握し、多様な解決策を提示します。

- ☆ 介護予防・生活支援総合事業を多様な形態で実施するボランティアな『組織と人』を育成し、支援します。
- ☆ 『加古川認知症の人と家族・サポーターの会：元気会』の定例会場を提供し、活動を支援します。
- ☆ 認知症の人に学ぶ『りょうえんカフェ一番星』を開催します。
- ☆ 第三者委員を中心に毎月『サービス改善委員会』を開きます。
- ☆ 職員の資質向上を意図した企画・研修・相談を行います。

15 地域交流事業

ご利用者の自立と主体性を尊重し、ご家族や地域の人々との交流を深め、法人事業と介護業務への理解と信頼を高めることを目指して、以下の取組を企画し実施していきます。

- ① 介護について語ろう会：毎月第4金曜日14時～15時、「介護塾」として「老いて要介護になる人」の価値と役割について語り合います。
- ② のびのびルーム：ご利用者の自主サークル活動・13時～
月：自彊術、火：映画、水：カラオケ、木：自彊術
場所：せいりょう園1階ホール・地域交流ホール
- ③ 共生の会：シニア世代の勉強会・毎月第1月曜日18時30分～
- ④ 機関紙『せいりょう園』の発行：月刊
- ⑤ 木野雅之ヴァイオリンリサイタル：7月7日（土）予定
- ⑥ せいりょう園陶芸教室：指導・喜多千景・中本万理恵、顧問・川西幹夫
：月3回、日曜昼・月曜午後はアトリエにて
：金曜午後は地域交流ホールにて
- ⑦ 仏教講話：ご住職持ち回りで法話を聞く会、毎月第1月曜日15時
- ⑧ ピアノ教室：金曜日10時～藤城亜紀子先生のピアノ伴奏で歌う会
- ⑨ 自彊術療法：水曜日15時～佐藤鈴子奥伝師範の指導により、安心ホルモンの分泌を促す療法の実技指導、地域交流ホールにて
：日曜日10時～グループホームまどかにて
- ⑩ 音楽療法：水曜日14時～15時、築山佳奈子先生の指導で合唱・合奏を楽しみながら、感性・感覚を活性化し生活力を維持する試み
- ⑪ 造形教室：金曜日9時～10時 グループホームまどか、
：日曜日13時～14時 アトリエ
喜多千景先生・中本万理恵先生の指導により、小麦粉を使って造形的な感覚の活性化を図る試み。
- ⑫ 書道教室：1・3火曜日13時～、土井清子先生の指導と近隣の皆様の参加を得て、一緒に練習します。

- ⑬ ボランティア活動の推進と募集：図書整理、舞踊・歌謡・手品等々のサークル活動の発表会、のびのびルームの世話、手芸、園芸、折り紙、書道、等々をお年寄りと一緒に楽しむボランティアの方が多数参加して下さっています。新たな方々の参加を歓迎します。
- ⑭ 街角コンサート：リバティかこがわ1階廊下に置いてある自動演奏ピアノを弾いて、『街角コンサート』を開いて頂ける方を募集します。
- ⑮ 「安心できる地域ケアを考える会」定例会の会場を提供します。
：毎月第四火曜19時～21時リバティかこがわ2階
- ⑯ 『ラン伴』への参加：北海道から九州まで、認知症の人に地域の人々が伴走して全国を縦断するリレーに参加します。
- ⑰ 村津瑠紀ヴァイオリンコンサート：年に1～2回、長砂出身の村津さんが帰郷の際に、リバティかこがわ2階ホールで開きます。
- ⑱ 子育てひろば「にこにこ in せいりょう園」：リバティかこがわ2階
：毎月1回、NPO法人子育てサポート☆きらりingが主催します。
- ⑲ 俳句を楽しむ『清涼句会』：毎月第2土曜日13時～15時
：升田ヤス子先生の指導を得てアトリエにて行います。
- ⑳ 男性のための料理教室：金曜日13時30分～15時、リバティかこがわ2階において、管理栄養士と調理師の指導で、独り暮らしを楽しめる男性を目指した料理教室を開きます。